

させる

外港地区防波堤（第二中央）でも1件の工事を会員企業が進めていました。

特に被害が大きかった八太郎地区北防波堤（中央部、ハネ部、基部で構成）では、2012年4月にケーソンの据え付けが始まり、中央部は据え付けのほか、一部では上部コンクリートの打設まで終了。ケーソンが流失した「ハネ部」で据え付けに向けた基礎均し作業などが行われていました。

外港地区防波堤では、津波による被害が発生した3カ所で構造物の撤去や基礎工、根固め工、被覆ブロックと消波ブロックの設置などを実施する計画で、ケーソンやブロックの撤去はすでに完了しており、被覆ブロックや消波ブロックの設置に向けて基礎マウンドの造成などが進んでいました。

生徒たちは、五洋建設・みらい建設工業・本間組JV（八戸港八太郎地区防波堤〈北〉〈災害復旧〉ケーソン撤去外工事）の下川床徹所長と東洋建設・不動テトラJV（八戸港外港区地区防波堤〈第二中央〉外〈災害復旧〉築造外工事）の蜂谷徹所長から工事概要の説明を受けた後、船上から防波堤を見学。地元の震災復旧事業とあって真剣な表情で現場を見つめていました。波の中で行われている工事の難しさを感じ入っていたり、初めて目にする防波堤工事の姿に興奮した表情を見せたりする生徒もいました。

東日本大震災は未曾有の災害でしたが、古来より自然災害の最前線に立ってきたのが建設産業に従事する



現場を船から視察する生徒



海の工事に興味津々の将来の「海のシビルエンジニア」たち

人々です。生徒たちには、震災復旧に立ち向かう建設会社の社員が頼もしく映ったことでしょうか。今回の見学会をきっかけに、海のシビルエンジニアを目指す生徒が出てくるかもしれません。大いに期待したいと思います。

（社）日本埋立浚渫協会ホームページのご案内 港湾土木の迫力ある現場を Web 上で訪ねる <http://www.umeshunkyo.or.jp/>

当協会のホームページでは、海洋土木技術や貴重な港湾遺産、港湾整備の歴史などを皆様に分かりやすくお伝えしています。小学生や中学生の皆さんにもご理解いただけるようイラストやアニメーションによる「みなとkids」のコーナーも設けています。

このうち、「うみの現場見学会」ではこれまで開催された14回分の見学会の様子をレポートしています。ご参加いただいた方々は延べ700人を超え、北は苫小牧港から南は北九州港まで、地盤改良や埋め立て、浚渫、沈埋トンネルなどの現場を訪ね、港湾土木の迫力ある現場を体感していただきました。是非、ご覧ください。

